

株式会社エービーエム

2021年度

環境経営レポート

2021年4月～2022年3月

発行日：2022年7月1日

豊かに快適な環境を求めて…



～ 目 次 ～

1. 社是・経営方針・環境方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 2
2. 組織の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 3
 - 2-1. 事業者名及び代表者氏名
 - 2-2. 事業所所在地
 - 2-3. 環境管理責任者及び担当者連絡先
 - 2-4. 創業（設立）年月日
 - 2-5. 資本金
 - 2-6. 認証・登録範囲
 - 2-7. 事業の規模
 - 2-8. 実施体制
3. 環境経営目標とその実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 5～13
 - 3-1. 環境負荷の現状（令和3年度環境負荷自己チェック結果より）
 - 3-2. 環境経営目標（単年度・中期）と達成状況
4. 環境経営計画と取組結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 14
5. 指定管理施設の環境負荷について・・・・・・・・・・・・・・・・ p 15
6. 環境関連法規等の遵守状況、訴訟等の有無・・・・・・・・ p 16
 - 6-1. 適用となる環境関連法規等とその遵守状況
 - 6-2. 法令違反・訴訟等の有無
7. 代表者による見直しの結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 16
8. 環境コミュニケーションの取組・・・・・・・・・・・・・・・・ p 17～18

当社の新型コロナ対策について



before

左図のように総務、清掃業務部、設備管理部が一つのフロアに約20人の社員がいる環境でしたが、壁を増設し、エリアを分断、社員同士の「密」を解消しました。



after



after



before

2階は研修室でしたが1階から出ることになった清掃業務部と設備管理部の執務室にレイアウト変更し、組織間での感染を未然に防止いたしました。



after



after



研修スペースが無くなったため、令和2年12月に敷地内に研修センターを設置し、あらゆる感染症対策を講じながら、社員教育も継続しています。



研修センター内は、会議や面接、研修などあらゆる用途で使用可能です。もちろん照明はLED、エアコン完備です。



社 是

私達は、技術・知識の向上に努め
安全・安心・清潔のサービスをモットーに
快適な環境を社会へ提供します。

経 営 方 針

私達は お客様感動を達成します。
私達は 事故ゼロを継続します。
私達は 不祥事案を撲滅します。
私達は 環境方針を推進します。

環 境 経 営 方 針

環境理念

私たちは、ふるさとの豊かな環境を守り、持続可能な社会の実現を目指すため、環境マネジメントシステムの継続的な運用改善を図り、自らの環境負荷を可能な限り削減していくとともに、総合ビル管理、警備、指定管理等の業務を通じて、「安全・安心・清潔」に関する技術と真心サービスを提供しつつ、お客様の環境負荷の削減にも寄与してまいります。

環境行動指針

1. 環境関連法規等を遵守します。
2. 電力使用、化石燃料の消費に伴い発生する二酸化炭素を計画的に削減していきます。
3. 廃棄物を可能な限り削減するとともに分別を徹底し、リサイクル率の向上に努めます。
4. 節水に努め、水資源を大切にします。
5. 化学物質の使用量を削減していきます。
6. 社員のスキル向上により、業務の効率化を図り、他社との差別化を図ります。
7. お客様の環境負荷削減につながる提案を積極的に行い、可能な範囲で実践します。
8. 地域の環境保全活動に貢献します。

制定日：平成28年6月1日

最終改定日：令和元年5月1日

代表取締役社長 赤間俊明

2. 組織の概要



2-1. 事業者名及び代表者氏名

- 株式会社 エービーエム
- 代表取締役社長 赤間俊明

2-2. 事業所所在地

- 本社：〒992-0003 山形県米沢市窪田町窪田 584-2
- 南陽営業所：〒992-0472 山形県南陽市宮内 4641

2-3. 環境管理責任者及び担当者連絡先

- 環境管理責任者：清掃業務部部长 遠藤雅之
- 連絡担当者：企画・人事部部长 田口浩之
- 連絡先：TEL0238-37-5733 FAX0238-37-2822
- Email：sale@y-abm.co.jp

2-4. 創業（設立）年月日

- 1968年（昭和43年）9月

2-5. 資本金

- 1,000万円



2-6. 認証・登録範囲

1) 対象サイト：本社ならびに南陽営業所、指定管理施設

2) 事業活動：

警備業務（機械警備・常駐警備等）、清掃業務（日常清掃・定期清掃等）

ビル総合管理業務（設備管理・環境衛生管理等）、指定管理業務

2-7. 事業の規模

事業年度 事業規模	平成28年度 (H28.4~H29.3)	平成29年度 (H29.4~H30.3)	平成30年度 (H30.4~H31.3)	令和元年度 (H31.4~R2.3)	令和2年度 (R2.4~R3.3)	令和3年度 (R3.4~R4.3)
売上高(千円)	773,711	791,260	826,570	847,513	832,691	901,540
認証対象従業員数/全 従業員数	229/263	234/268	280/280	280/280	270/270	270/270
従業員数:本社	38	38	38	38	38	38
従業員数:南陽営業所	7	7	7	7	7	5
床面積(m ²):本社	303.9					
床面積(m ²):南陽営業所	101.8					

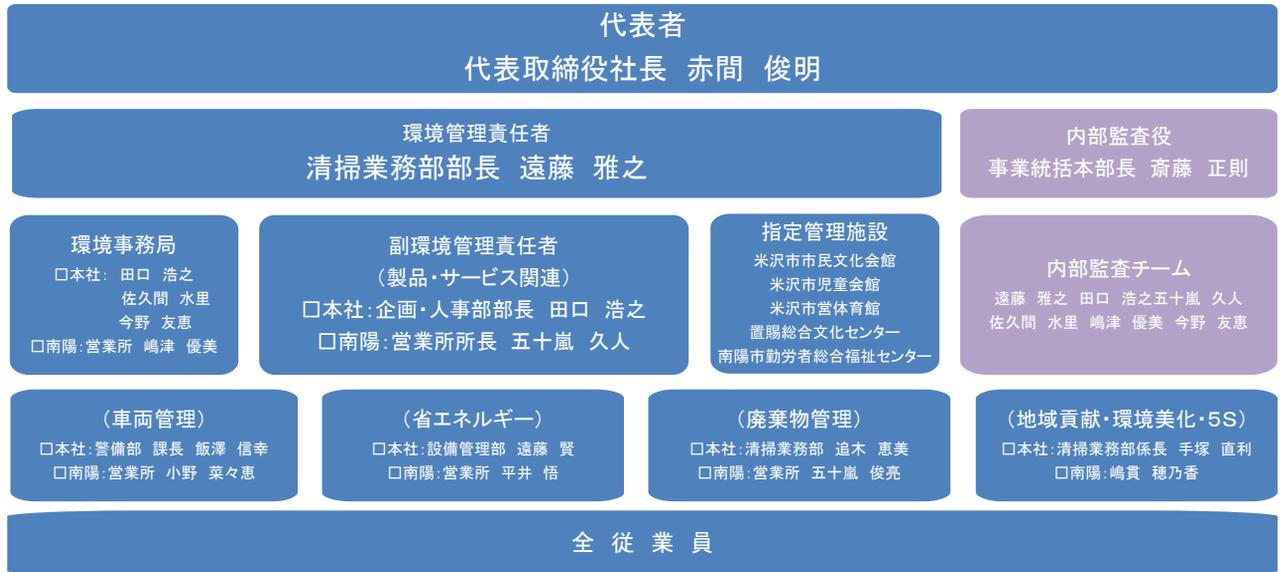
※売上高は、当社会計年度(4~3月)に合わせて集計しています。従業員数は各年度4月時点での在籍数です。
従業員数には、業務受託現場に直行直帰する従業員は含まれていません。



2. 組織の概要



2-8 実施体制



	役割・責任・権限
代表者 (社長)	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 環境管理責任者 (現場環境管理責任者) を任命 環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 環境目標・環境活動計画書を承認 代表者による全体の評価と見直しを実施 経営における課題とチャンスを整理し、明確にする 環境活動レポートの承認
内部監査役	<ul style="list-style-type: none"> 内部監査チームを組織して、適切に内部監査を実施する 監査の結果を代表者及び環境管理責任者に報告する 内部監査員の教育を実施する
内部監査員	<ul style="list-style-type: none"> 内部監査役の指示により、中立的な立場で、対象となる部門の内部監査を実施し、マネジメントシステムの有効性について評価し、記録を作成し、内部監査役に提出する
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 環境関連法規等の取りまとめ表を承認 環境目標・環境活動計画書を確認 環境活動の取組結果を代表者へ報告 環境活動レポートの作成・発行
副環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者を補佐する それぞれの所轄 (本社・南陽営業所) の環境の取組を管理する
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 環境目標、環境活動計画書原案の作成 環境活動の実績集計 環境関連法規等取りまとめ表の作成 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境活動レポートの作成、公開 (事務所に備付けと地域事務局への送付)
EA21推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> 定期 (四半期ごと) 又は環境管理責任者の招集により開催する 推進委員会のメンバーは、正副環境管理責任者、環境事務局とし、そのときの審議事項の内容によって、代表者、内部監査役の出席を仰ぐ 委員会の議題は、環境目標の達成状況、環境活動計画の取組状況、環境関連法規の遵守状況、環境上の苦情や緊急事態への対応、内部監査の結果や審査人からの指摘事項への対応、その他、環境管理責任者が必要と判断した事項とする 審議の結果に基づき、適切な是正予防処置を定め、関係者に指示する
部門責任者 ■製品・サービス関連 ■車両管理 ■省エネルギー ■廃棄物管理 ■地域貢献・環境美化・5S	<ul style="list-style-type: none"> 関連する環境目標ならびに環境活動計画の設定ならびに改訂の提案 環境活動計画の取組状況の監視ならびに指導 環境目標の達成状況に応じた是正策予防策の提案と実施または目標の見直しの具申 環境負荷削減につながる改善提案ならびに情報収集 取組に必要な手順書・マニュアル等の整備 取組に必要な環境教育の企画と実施 その他、担当部門の目標達成に必要な事項
施設環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 施設内の環境の取組を管理する 施設内における環境負荷の削減に向けた目標と活動計画の提案 環境負荷データの取りまとめと報告 環境目標の達成状況に応じた是正策予防策の提案と実施または目標の見直しの具申
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

3. 環境経営目標とその実績 (本社及び南陽営業所)



3-1. 環境負荷の現状(令和3年度環境負荷自己チェック結果より)

■ 二酸化炭素排出量

※電力使用に係る二酸化炭素排出係数については、R3年度東北電力(調整後:0.521)を用いています。

1) 当社における令和3年度のCO₂排出量は合計72,397kg-CO₂となっており、前年度比4.4%減少しました。これは平均的な一般家庭25軒分の年間CO₂排出量に相当します。

(令和2年度世帯平均年間排出量2.88t-CO₂ 出典:家庭部門のCO₂排出実態統計調査(環境省HP))

2) 当社から排出されるCO₂の約60%はガソリン・LPG(車両用)の消費によるもので43,069kg-CO₂(前年比4.5%減)、次いで電力の使用に伴うものが38.8%、28,120kg-CO₂(同12.1%増)、灯油の消費に伴うものが3.3%、2,375kg-CO₂(同43.2%減)などとなっています。

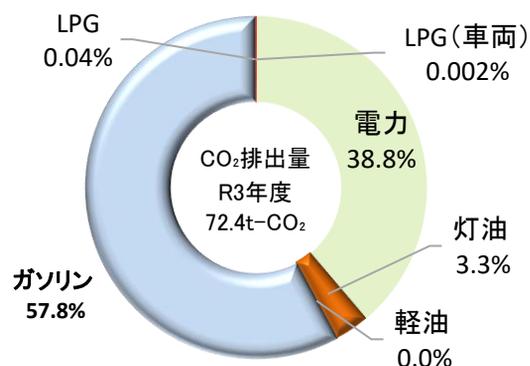
3) ガソリン、LPGは、業務用車両の運行に伴い消費し、電力は事務所の照明、冷暖房、消雪用井戸ポンプの稼働で使用しています。また、LPGは事務所給湯用となっています。

4) 月別のCO₂発生量は12月~3月の冬期間(降雪期)に多くなっています。これは、灯油消費量の増加と消雪ポンプ稼働に伴う電力使用量が増加するためです。令和3年度は令和2年度に比して、1月、2月の降雪量が特に多く、寒い日が続いたため、灯油・電気の使用量が増加しています。ガソリンは、月による変動にあまり特徴はありませんが8月、12月、1月が多い傾向にあります。これは、冷房、暖房を使用しているためです。

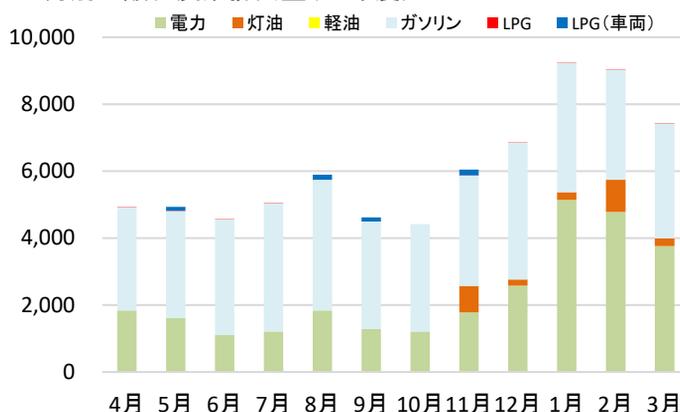
令和2年度行った本社のリフォームによって灯油による暖房から省エネタイプのエアコンに切り替えを行いました。そのため、電力使用量は令和2年度に引き続き増加傾向にあります。

5) 以上のことから、特に車両運行に伴うガソリン・LPGの削減、冬期間の暖房使用及び、消雪用ポンプ稼働に伴う電力使用の削減などが重点課題となります。

<二酸化炭素の排出源(R3年度)>



<月別二酸化炭素排出量(R3年度)>



■ 廃棄物排出量

1) 一般廃棄物:可燃ごみ、紙類(資源回収対象)などは、行政の分別ルールに従い、本社・南陽それぞれ、量を把握した上で排出しています。可燃ごみが最も多く、本社659kg、南陽79kg、次いで紙類(再生資源)が本社211kg、南陽66kgなどとなっていました。なお、リサイクル率は本社27.9%、南陽51.0%となっていました。

2) 産業廃棄物:汚泥(ワックス剥離液・洗剤廃液等)が全体の44%(940kg)を占めています。その他の廃棄物については、廃プラスチック、乾電池以外、管理受託現場から排出されたものとなります。

■ 総排水量(水使用量)

本社・南陽ともに融雪用に地下水を利用していますが、量は把握できません。水道は、すべて生活用水となります。本社、南陽合わせて、665m³使用しました。前年比5.4%減少しました。なお、放流先は本社は公共用水域(浄化槽)、南陽は下水となります。

■ 化学物質使用量(購入量)



清掃業務に使用する洗剤、剥離剤等にPRTR成分を含有しているものを使用していましたが、令和2年度に引き続き、令和3年度もPRTR成分を含有している洗剤、及び剥離剤は使用していません。



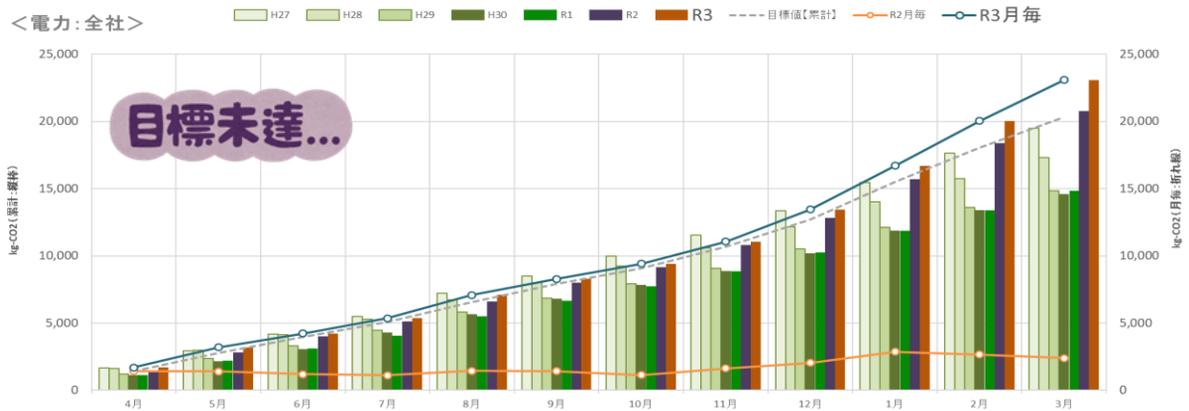
3-2. 環境経営目標（単年度・中期）と達成状況

環境経営方針との整合性を図りながら、環境負荷の自己チェックの結果を踏まえ、6項目（二酸化炭素、廃棄物、水、化学物質、製品・サービス関連）について、環境目標（単年度目標&5年間の中期目標）とその達成に向けた活動計画を策定し、取組を行いました。達成状況は下記のとおりです。

※冬期間、本社の消雪用地下水揚水ポンプに使用する電力については、積雪量によって大きく変動することから、数値目標の対象としていません。

■ 二酸化炭素排出量（電力）

【R3年度目標】（本社）R2年度比2%削減（南陽）H27年度比66%削減
 【中期目標（R3~R7）】（本社）R2年度比10%削減（南陽）H27年度比70%削減



【取組結果】（取組期間：R3.4~R4.3）

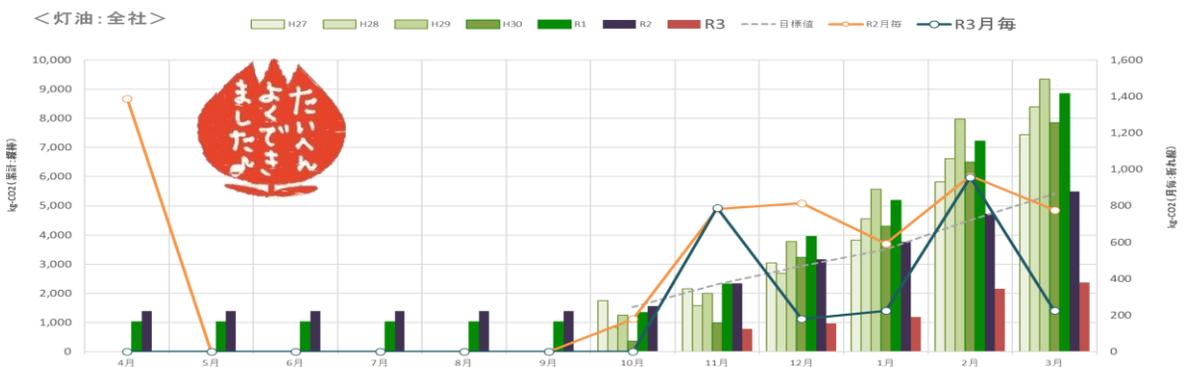
- 基準年度実績：
（本社）19,648kg-CO₂（南陽）3,161 kg-CO₂
- 取組期間目標：20,330 kg-CO₂
- 取組期間実績：23,123 kg-CO₂
- 増減量：+314 kg-CO₂
- 増減率：+1.38%

【評価コメント】

本社では基準としたR2年度の数値を上回る結果となりました。要因としては屋外プレハブのエアコンを2台整備したこと、冬期間例年になく寒い日が続いたことにあります。南陽は基準年度実績を49.7%削減出来、目標までもう一步の結果となりました。全体を通して、主に冬期間灯油の代わりにエアコンを使用したことで電力の使用が増加しましたが、全体のCO₂排出量削減には効果があったと言えます。

■ 二酸化炭素排出量（灯油）

【R3年度目標】（本社）R2年度比2%削減（南陽）R1年度比25%削減
 【中期目標（R3~R7）】（本社）R2年度比10%削減（南陽）R1年度比29%削減



【取組結果】（取組期間：R3.4~R4.3）

- 基準年度実績：
（本社）3,875 kg-CO₂（南陽）2,161 kg-CO₂
- 取組期間目標：5,419 kg-CO₂
- 取組期間実績：2,375 kg-CO₂
- 増減量：-3,661 kg-CO₂
- 増減率：-60.7%

【評価コメント】

本社63.0%減、南陽56.4%減となり、全社として目標を達成することができました。要因として、暖房をエアコンに切り替えたことや、使用を必要最小限に抑える、従業員の意識向上があげられます。冬期間の気温や気象状況に左右されやすい項目ではありますが、今後も引き続き取り組みを継続していき、省エネに寄与していきたいと思えます。

■ 二酸化炭素排出量（ガソリン）

【R3年度目標】（本社）H30年度比2%削減（南陽）H30年度比4%削減
 【中期目標（R3～R7）】（本社）H30年度比6%削減（南陽）H30年度比8%削減



【取組結果】（取組期間：R3.4～R4.3）

- 基準年度実績：
（本社）38,331 kg-CO₂（南陽）5,751 kg-CO₂
- 取組期間目標：43,085 kg-CO₂
- 取組期間実績：41,868 kg-CO₂
- 増減量：-2,214 kg-CO₂
- 増減率：-5.0%

【評価コメント】

本社3.3%減、南陽16.8%減となり、どちらも目標を達成することができました。本社で警備車両を1台ハイブリッド車に切り替えたことや、エコドライブの実践により達成できたと思われます。

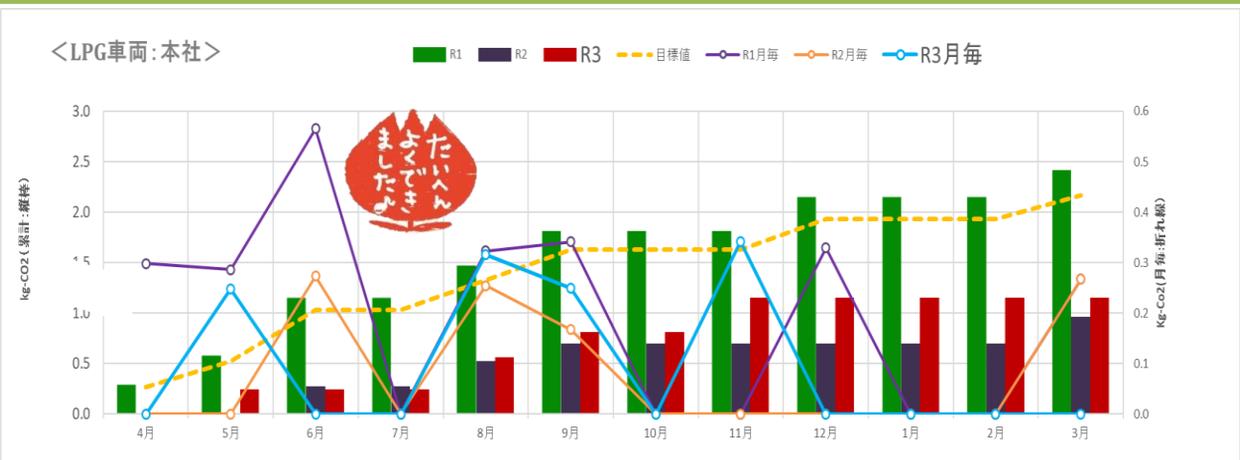
ハイブリッド車を順次導入しています

本社営業車両(写真左)、本社警備車両(写真右)としてそれぞれ1台ずつハイブリッド車を導入しております。



■ 二酸化炭素排出量（LPG車両）

【R3年度目標】R1年度比10%削減
 【中期目標（R3～R7）】（本社）R1年度比18%削減



【取組結果】（取組期間：R3.4～R4.3）

- 基準年度実績：2.4 kg-CO₂
- 取組期間目標：2.2 kg-CO₂
- 取組期間実績：1.2 kg-CO₂
- 増減量：-1.2 kg-CO₂
- 増減率：-50.0%

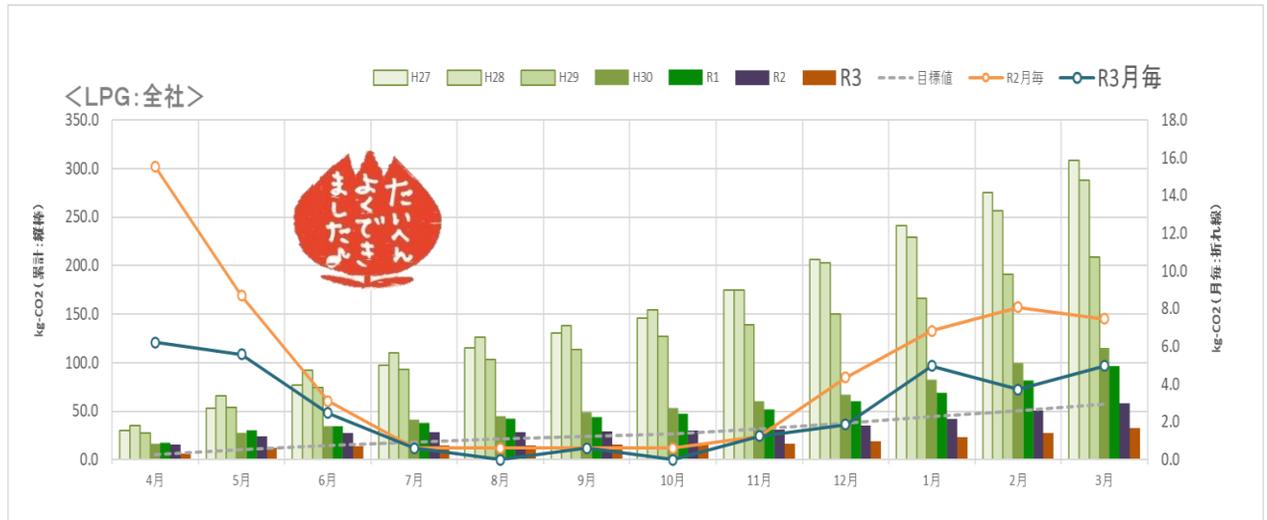
【評価コメント】

使用を抑えたことで目標を大きく達成することができました。今後も最低限の使用に抑え、CO₂排出量削減に貢献していきたいと思ひます。

■ 二酸化炭素排出量 (LPG)

【R3年度目標】 (本社) H27年度比77%削減 (南陽) H27年度比85%削減

【中期目標 (R3~R7)】 (本社) H27年度比77%削減を維持 (南陽) H27年度比85%削減を維持



【取組結果】 (取組期間: R3.4~R4.3)

- 基準年度実績:
(本社) 137 kg-CO₂ (南陽) 171 kg-CO₂
- 取組期間目標: .57.5 kg-CO₂
- 取組期間実績: 32.1 kg-CO₂
- 増減量: -275.9 kg-CO₂
- 増減率: -89.6%

【評価コメント】

本社84.6%減、南陽93.5%減となっており、どちらも目標を大きく達成することが出来ました。夏場の使用は控える、温度設定を低くするなどの成果が出ております。また、使用時のみ元栓を開け、使用後は元栓を必ず締めるようにしております。今後も使用ルールを徹底し、削減率向上に努めていきたいと考えております。

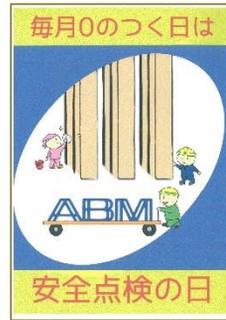
令和3年度安全衛生ポスター優秀作品



最優秀賞
ナセBA 我彦政孝さん



優秀賞
三友堂病院
村上健壽さん



優秀賞
米沢市民会館
栗山恵美子さん



参加賞
三友堂病院
運沼誠さん

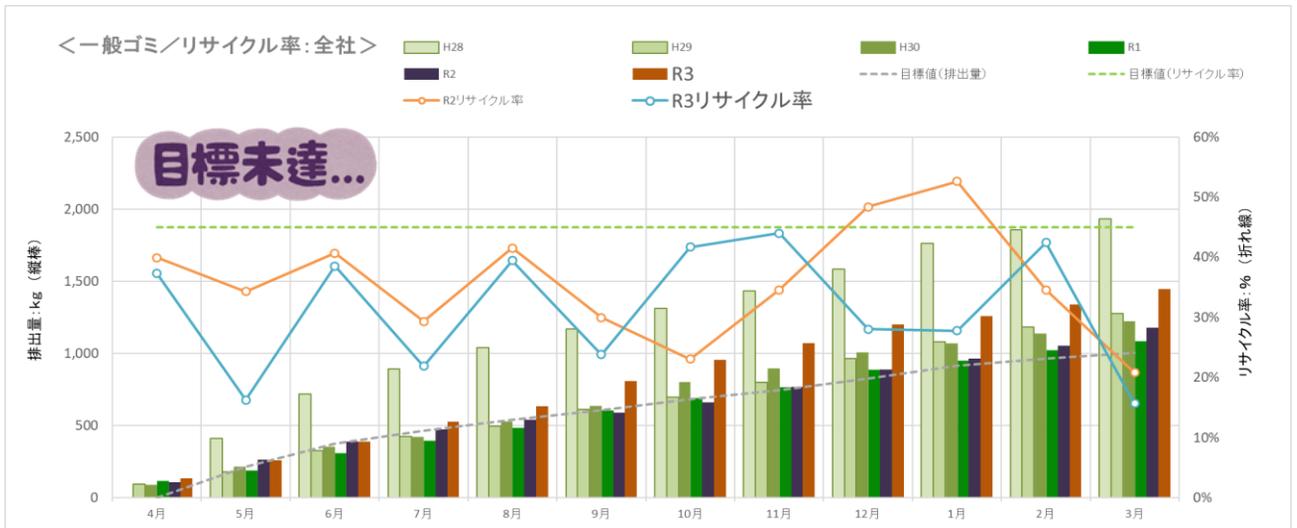


優秀賞
米沢市民会館
鈴木繁さん



■ 一般廃棄物排出量

【R3年度目標】(本社)H28年度比排出量36%削減 (南陽)H28年度比48%削減 / リサイクル率40%
 【中期目標 (R3~R7)】(本社)H28年度比排出量40%削減 (南陽)上記を維持 / リサイクル率45%



【取組結果】(取組期間: R3.4~R4.3)

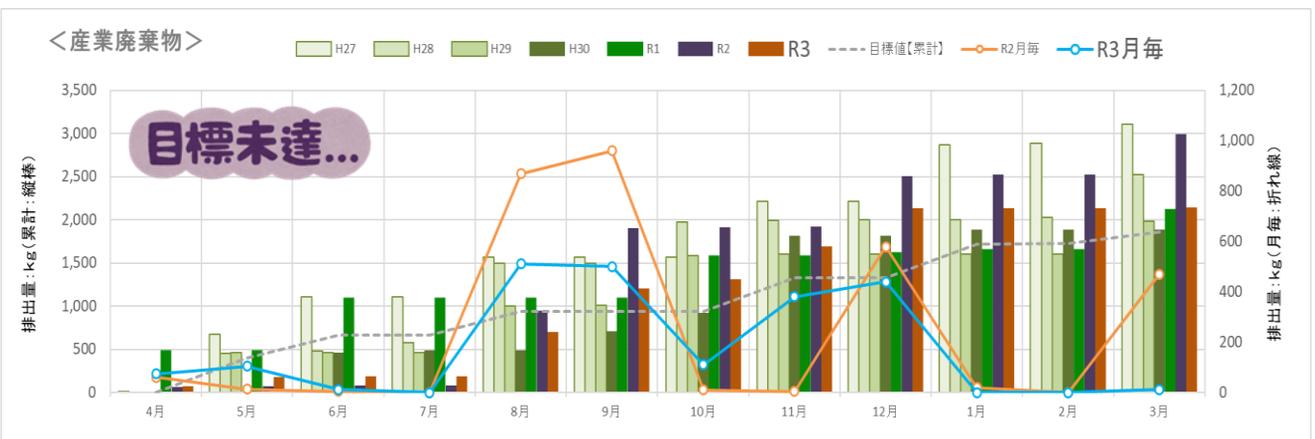
- 基準年度実績: 排出量 1,932 kg リサイクル率 30%
- 取組期間目標: 排出量 1,194 kg リサイクル率40%
- 取組期間実績: 排出量 1,448 kg リサイクル率31%
- 増減量: 排出量 +254 kg リサイクル率 +1%
- 増減率: 排出量 +21.3%

【評価コメント】

排出量は本社1245kg、南陽203kg、リサイクル率は、本社28%、南陽51%となり、本社は目標に届かず、南陽はリサイクル率のみ目標を達成することができました。分別の徹底が目標達成につながっているのではないかと思います。また、今年度の途中から個人のゴミは持ち帰るようにいたしました。今後も継続して取り組み、目標の達成を目指していきたいと思っております。

■ 産業廃棄物排出量

【R3年度目標】H27年度比40%削減
 【中期目標 (R3~R7)】H27年度比40%削減を維持



【取組結果】(取組期間: R2.4~R3.3)

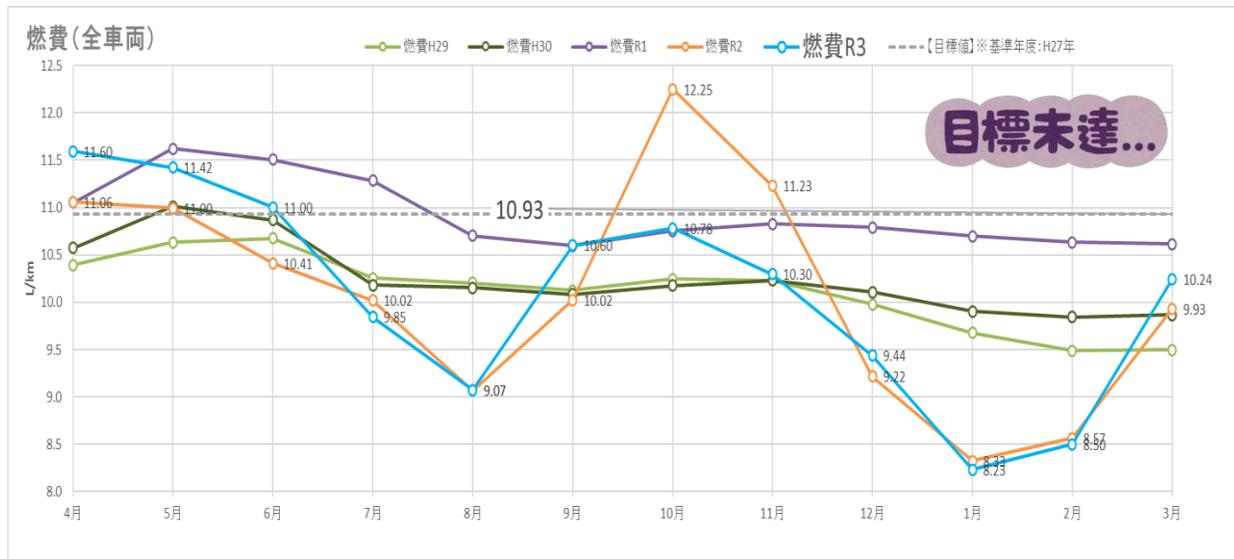
- 基準年度実績: 3,103 kg
- 取組期間目標: 1,862 kg
- 取組期間実績: 2,144 kg
- 増減量: -959 kg
- 増減率: -30.9%

【評価コメント】

倉庫整理や現場の廃棄物によって排出量が多く、目標を達成できませんでした。また、ワックス剥離などのスポットでの依頼が多く、汚泥の排出が増えたことも要因の1つであると思われます。分別できる部分は徹底していきたいと思っております。

燃費

【R3年度目標】 基準年度燃費を30%向上
 【中期目標 (R3~R7)】 基準年度燃費を30%向上を維持



【取組結果】 (取組期間: R3.4~R4.3)

- 基準年度実績: 8.41 k m/L
- 取組期間目標: 10.93 k m/L
- 取組期間実績: 10.24 k m/L
- 増減量: +1.83 k m/L
- 増減率: +21.8%

【評価コメント】

基準年度よりは燃費が向上しているものの、目標達成まで0.69km/Lとあと少し手が届きませんでした。しかし、従業員のエコドライブ実践の効果は大きく、昨年度より燃費が向上しました。日々の努力が燃費に反映されていくため、引き続き取り組み燃費の向上を目指してまいります。

社有車

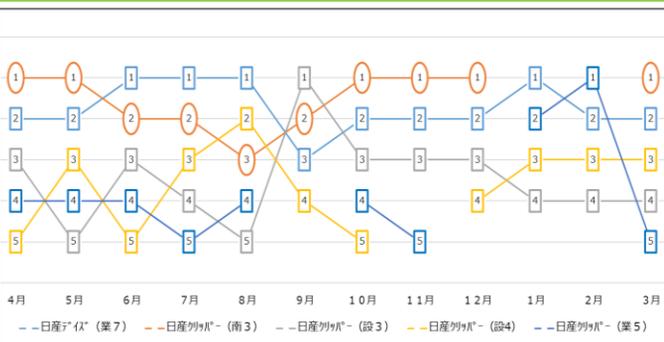
E-1GP

2021-2022



社有車E-1GPとは エコドライブを全従業員に周知するため、広報誌面において、社有車の燃費を毎月集計し、その月の燃費の良かった順位ベスト5を発表しています。毎年その順位にポイント(例4月1位5点)を付けて集計し、年間の高燃費車両を勝手に表彰するものです。

順位	種別	所属	登録年月	獲得ポイント
1位	日産クリッパー(南3)	南陽営業所	令和元年8月	51pt
2位	日産デイズ(業7)	清掃業務部	平成27年2月	45pt
3位	日産クリッパー(設3)	設備管理部	平成30年8月	30pt
4位	日産クリッパー(設4)	設備管理部	令和元年8月	26pt
5位	日産クリッパー(業5)	清掃業務部	平成30年8月	22pt



令和3年度エコドライブオブザイヤーに輝いたのは南陽営業所の日産クリッパーで獲得ポイントは51ポイントでした。昨年度は惜しくも2位でしたが、令和3年度は見事1位となりました。続く2位は清掃業務部の日産デイズで、45ポイントでした。また、3位以降は昨年度と順位が変わらない結果となりました。この上位5車の変動は、後半大きく動き1月、2月に上位にあがっていなかった日産クリッパー(南3)が3月に1位に躍り出る形になりました。一方で全体の燃費に関しては、目標値の10.93km/Lにあと少し届かず10.24km/Lでした。しかし、令和2年度と比較すると燃費は3%ほど向上しております。今後もエコドライブを実践してまいります。

■ 水使用量

【R3年度目標】（本社）R2年度比2%削減（南陽）R2年度比2%削減

【中期目標（H28～R2）】（本社）R2年度比10%削減を維持（南陽）R2年度比10%削減を維持



【取組結果】（取組期間：R3.4～R4.3）

■ 基準年度実績：

（本社）556 m³（南陽）158 m³

■ 取組期間目標：700 m³

■ 取組期間実績：629 m³

■ 増減量：-85 m³

■ 増減率：-11.9%

【評価コメント】

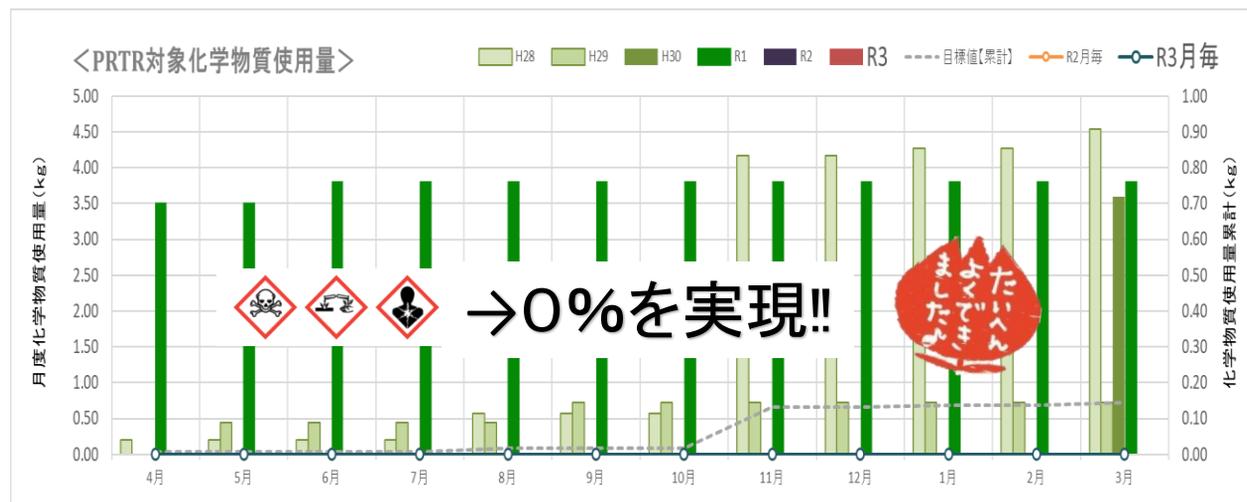
本社は10.5%減、南陽は11.6%減とどちらも目標を達成することができました。洗車や機材の洗浄は行っているものの人員配置や意識向上によって削減できたのではないかと思います。冬期間は検針ができないことや凍結防止で水を流すことがあるが、今後も取り組みを継続し、水使用量を抑えていきたいです。

■ 化学物質使用量（PRTR対象物質）

【R3年度目標】基準年度比100%削減

【中期目標（R3～R7）】基準年度比100%削減を維持

PRTR (Pollutant Release and Transfer Register)
：化学物質排出移動量届出制度
有害性のある多種多様な化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握し、集計し、公表する仕組み



【取組結果】（取組期間：R3.4～R4.3）

■ 基準年度実績：4.5 kg

■ 取組期間目標：0.0 kg

■ 取組期間実績：0 kg

■ 増減量：-4.5 kg

■ 増減率：-100%

【評価コメント】

昨年度より清掃業務で使用している洗剤、ワックス、剥離剤を化学物質を含まない商品への切り替えが完了しております。今年度も同様に化学物質を含まない商品を使用しておりまいた。今後も継続して取り組んでまいります。

■ 製品・サービスの環境負荷削減に係る環境目標

1) 社員のスキルアップ

…スキルアップ研修会の実施

毎年参加していた電話応対コンクールでしたが、コロナ感染対策を徹底するため、今年度も泣く泣く不参加となりました。ノーマスクが当たり前だった時代が懐かしい・・・。

社はならびに経営方針に掲げる「技術・知識の向上」や「社員のスキル向上により、業務の効率化を図る」ため、業務の区分ごとに実施回数を定め、計画的に研修会を開催しています。

【R3年度1人当たりの実施回数】（延べ実施回数）

- 警備…2回 (10回)
- 清掃業務…1回 (11回)
- 設備 …1回 (12回)
- その他の社員（指定管理・総務・電話交換等）1回 (2回)
- 新人社員研修 1回 (2回)
- エコドライブ研修1回



コロナ禍においても、社員研修は感染症対策を万全にして実施いたしました。

2) 誤発報による緊急出動回数の削減 該当発生回数の把握&原因分析

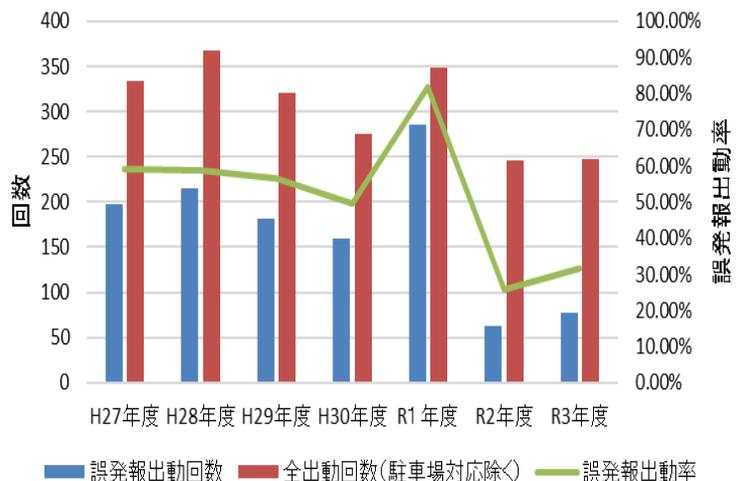
【取組結果】（取組期間：R3.4～R4.3）

- 取組期間目標：26%
- 取組期間実績：25.6%

出動件数は昨年度比+2件、誤発報件数が昨年度比+15件といずれも増加いたしました。センサーの定期的な交換や、お客様には操作方法の周知を徹底を引き続き行い、誤発報を減らす工夫を行います。誤発報による無駄な移動を減らすよう努めてまいります。

誤発報とは
開始・解除ミス、鍵収納ミス、未施錠
→人的要因
センサー不良→機械的要因
その他（人的）

誤発報出動率



■ 地域の環境保全



【R3年度目標】 会社周辺の清掃活動

【中期目標 (R3~R7)】 上記を月1回以上実施(冬期間を除く)



毎月第一金曜日に社屋・南陽営業所の周辺清掃を実施しております。(冬期間を除く)

令和3年度も「WAKUWAKUWORK」に参加いたしました。例年では2校(米沢中央高校・置賜農業高校)で清掃指導や警備員の仕事紹介を行っていましたが、新型コロナウイルス感染症予防のため、今回は米沢中央高校の皆様へ警備業務体験を行ってまいりました。



「WAKUWAKUWORK」とは米沢商工会議所が主催する、学校に地元企業・公共団体が集まり、進路決定前の高校生に様々な職業を体験してもらう事業です。

従業員とその家族で『家庭・自動車のアクション』にチャレンジ！～家庭での省エネ・節電・エコドライブにチャレンジ～

山形県地球温暖化防止県民運動推進協議会主催の『目指せ！カーボンニュートラル家庭・自動車のアクション』に従業員39名が参加しました。『家庭・自動車のアクション』とは、地球温暖化の原因となる温室効果ガス排出量の削減のため、県民みんなで取り組む活動です。家庭のできるアクションという前提があるため、比較的簡単な内容ばかりでした。項目ごとに1人1日当たりのCO₂削減効果を推算しました。結果は下記のとおりです。

	取組項目	1人1日当たりのCO ₂ 削減効果(g)	実施している(従業員)	実施人数(従業員家族含む)	total(92日間)
省エネ・節電	電気冷蔵庫の開閉回数は少なくする。また、開閉時間は短くする。	5	36	123	56,580
	使用しない部屋の照明はこまめに消す。(蛍光灯の場合)	2	39	132	24,288
	冷房、暖房は、適切な温度で使用する。	55	33	111	561,660
	シャワーを流したままにしない。(1日1分利用時間短縮)	79	35	118	857,624
	エコドライブを行う。(例えば、発進時はふんわりアクセルでゆっくりスタートする、車間距離にゆとりをもって加速減速の少ない運転をする)※車1台1日当たりの削減量	717	34	118	7,783,752
クールチョイス	マイバッグ、マイボトルなどを活用し、なるべくゴミを出さない生活をする。	12	36	122	134,688
	電化製品を買い換えるときは省エネタイプのものを選ぶ。(電気冷蔵庫の場合)	140	31	104	1,339,520
	住宅の省エネリフォームをする。(内窓の設置など)	569	8	23	1,204,004
	宅配便は1回で受け取るようにする。	470	25	84	3,632,160
	COOLCHOICE(クールチョイス)に賛同し、地球温暖化防止の行動に取り組む。	0	17	54	0
カーボンニュートラル	太陽光発電パネルや木質バイオマス燃焼機器などの再エネ機器を設置する。(木質バイオマス燃焼機器設置の場合)	1,756	4	14	2,261,728
	エコ商品・リサイクル製品の購入、地産地消、Co ₂ 排出の少ない電力の選択などの「エンカル消費」に取り組む。	0	11	39	0
	自動車を購入する際には、エコカー(電気自動車やPHVなど)を選ぶ。	0	10	29	0
	やまがた健康住宅やゼロエネルギー住宅など断熱性能の高い住宅に住む。	0	5	12	0
	輸送にかかるエネルギーを少なくするよう、できる限り地元産の商品を選ぶ。	0	21	74	0
植樹や間伐体験など森を守る活動を行う。	0	3	8	0	
			CO ₂ 削減量		17,856,004g

今回の活動で削減出来たCO₂排出量を杉の植樹本数に換算すると、約1,275本になります。(※杉1本当たり、年間14kg-CO₂を吸収すると言われてます)これは、バスケットコート約9面分の広さに杉を植えたことになります。(※バスケットコート面積:420㎡)従業員数約14%が、家庭のできるちょっとした気遣い(アクション)を、たった3ヶ月間実施しただけでこれだけの結果に...これが、従業員全員が、毎日実施したならば、何倍もの結果に結びつくと考えられます。

①CO₂削減量 17,856,004 g → 17,856.004 kg
 ②CO₂削減量を杉の植樹本数に換算(杉は1本当たり1年間で14kg-CO₂のCO₂を吸収すると言われてます) 17,856.004 ÷ 14 = 1,275.428... ≒ 1,275(本)
 ③広さで換算(1ha(10,000㎡)当たりの杉の植樹本数は約3,110本) 1,275 ÷ 3,110 = 0.4099678... ≒ 0.410(ha)



4. 環境経営計画と取組結果



<評価判定の目安>
 ○…実施済。80%以上の社員が取組んでいる。80点以上の満足度である。
 △…一部未実施。50～80%の社員が取組んでいる。50～80点ぐらの満足度である。
 ×…未実施。50%未満の社員しか取組んでいない。50点未満の満足度である。(是正処置の対象)

環境経営目標	活動・取組項目	活動の具体的内容	実施時期	場所・対象者	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	備考、是正処置の必要性等
		(どのように)	(いつまでに)	(どこで)					
二酸化炭素排出量の削減	■消費電力の削減	■室温は、暖房期20℃、冷房期28℃で管理	冷暖房期間	事務所等	○	○	○	○	
		■サーキュレーターを稼働させ、室内温度差をなくす	暖房期間	事務所等	—	—	○	○	
		■使用していない部屋のエアコンはOFF	冷暖房期間	事務所等	○	○	—	—	
		■定期的にエアコンのフィルターを清掃	6月・11月	事務所等	○	○	—	—	
		■不要な照明は消灯	通年	事務所等	○	○	—	—	
		■クールビズの推進	夏期	全社員	○	○	—	—	
		■ウォームビズの推進	冬期間	全社員	—	—	○	○	
		■窓にすだれを垂らし、直射日光を防ぐ	7月	事務所	○	○	—	—	
		■窓に緩衝材を貼り付け	冬期間	事務所等	○	○	○	○	
	■電力使用量の見える化推進(環境負荷データの揭示)	毎月	事務所等	○	○	○	○		
	■ガソリン・軽油使用量の削減 ※製品・サービス関連目標	■エコドライブの教育研修	1月	運転者全員	—	—	—	○	
		■燃費・走行距離の把握(車両日報の記入)	通年	運転者全員	○	○	○	○	
		■5000km(6ヶ月)ごとにオイル交換、10000km(1年)ごとにエレメント交換(ハイブリッド車は別途規定する)	通年	車両	○	○	○	○	
		■適切な時期でのタイヤ交換	4月・11月	車両管理者	○	—	○	—	冬タイヤは11月1日から
		■適切な空気圧の維持	通年	車両管理者	○	○	○	○	
■エコタイヤの導入		通年	業務管理者	○	○	○	○		
■その他化石燃料の削減(灯油・LPG)	■不要な荷物を乗せたままにしない	通年	車両管理者	○	○	○	○		
	■業務の効率化(車両運行ルートの管理)	通年	業務管理者	○	○	○	○		
	■計画的な低燃費車両への入れ替え	5カ年計画	全車両			○	○	車両入れ替え時には低燃費車やハイブリッドカーに交換	
■産業廃棄物の削減と適正管理	■暖房温度は決められた温度以下で管理する。	暖房期間	暖房エリア	—	—	○	○		
	■窓の内側に断熱材を貼り付ける	暖房期間	暖房エリア	○	○	○	○		
	■ウォームビズの徹底	暖房期間	暖房エリア	—	—	○	○		
	■必要最低限の温度で給湯(夏期は使用しない)	夏期を除く期間	事務所等	○	○	○	○		
	■委託先の状況確認	2年に1度	委託先	×	×	×	×	コロナ禍で実施出来ず	
■一般廃棄物の削減(リサイクルの推進)	■廃棄物置場の整理整頓	通年	廃棄物置場	○	○	○	○		
	■不要な資料・カタログ等の辞退・返却	通年	全社員	○	○	○	○		
	■コピー用紙削減(両面コピー・裏紙利用の徹底)	通年	事務所	○	○	○	○		
■対象化学物質の削減	■一般廃棄物の排出量記録	排出時	廃棄物置場	○	○	○	○		
	■社内の整理整頓	随時	社内外	○	○	○	○		
	■保管場所の管理(安全衛生状態も含む)	通年	廃棄物置場	○	○	○	○		
■対象化学物質の削減	■SDSの収集整理・対象製品・使用量の把握	通年	本社	○	○	○	○		
	■対象化学物質含有量の少ない製品の選定	通年	本社	○	○	○	○	R2全ての商品を切替	
	■清掃方法の改善	■化学物質を使用しない清掃手法の検討(情報収集)	通年	本社	○	○	○	○	
■水道使用量の削減	■「節水」の掲示	通年	流し台	○	○	○	○		
	■蛇口元栓の調整(必要最小限の流量)	6月末	流し台	○	○	○	○		
	■地下水の適正利用基準の策定と遵守	通年	敷地内	—	—	—	—	積雪センサーの設置	
■グリーン購入	■その他節水対策機器に関する情報収集	通年		○	○	○	○		
	■車両・設備・機械等購入時のルール確立と実践	通年		○	○	○	○		
	■資格取得者の増加	通年	全社員	○	○	○	○		
■社員のスキルアップ	■社内研修会・勉強会の開催、テキスト参考書購入補助	通年	全社員	○	○	○	○		
	■機器点検の実施	通年	機械警備施設	○	○	○	○		
	■異常発報件数の把握	通年	警備部	○	○	○	○		
■誤発報による緊急出動回数を減らす	■対策の検討	通年	警備部	○	○	○	○		
	■環境保護団体への協力	■「NPO環境ネットやまがた」の入会(支援・協力)	通年		○	○	○		
	■会社周辺の清掃活動	■周辺道路のごみ拾い、草刈りなどの実施	月1回(冬期以外)	会社周辺	○	○	○		
■その他	■家庭・自動車のアクション参加	夏			○			夏のみ参加	



5. 指定管理施設の環境負荷について



5-1. 環境負荷の現状(令和3年度環境負荷自己チェック結果(指定管理)より)

■ 二酸化炭素排出量

※電力使用に係る二酸化炭素排出係数については、R3年度東北電力(調整後:0.521)を用いています。

1) 指定管理施設における令和3年度のCO₂排出量は合計540,979kg-CO₂となっており、前年度比0.2%増加しました。これは平均的な一般家庭187軒分の排出量に相当します。

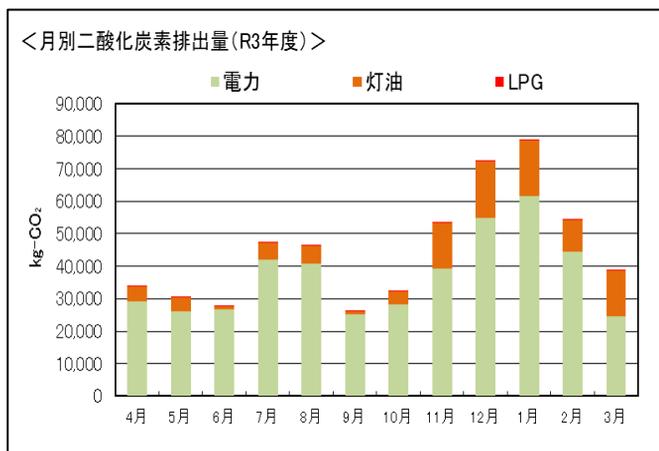
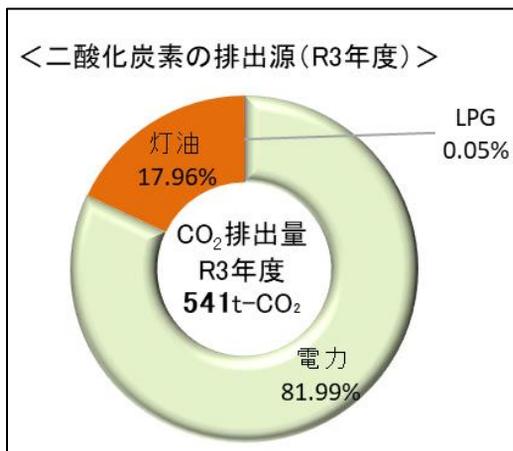
(令和2年度世帯平均年間排出量2.88 t-CO₂ 出典:家庭部門のCO₂排出実態統計調査(環境省HP))

2) 指定管理施設から排出されるCO₂の82.0%は電力の使用に伴うもので443,549kg-CO₂(前年比4.2%増)、次いで灯油の消費に伴うものが17.96%、97,150kg-CO₂(前年比7%減)などとなっております。

3) 電力は事務所の照明、冷暖房の稼働で使用しています。また、灯油は空調機ボイラー運転、事務所の暖房用、LPGは事務所給湯用となっております。

4) 月別のCO₂発生量は7月、8月の夏期間と11月12月~3月の冬期間(降雪期)に多くなっています。これは、冷暖房用の空調機を使用する機会が増えること、融雪用の地下水の引き上げポンプ(市営体育館)などそして主に暖房として灯油などの消費量が増加するためです。

5) 以上のことから、特に電力使用量の削減が重点課題となりますが、指定管理施設のように施設の利用によって電力使用量が大きく影響されるので、照明器具のLED化などによる省エネ機器への交換などを行政に提案し、実施していくことが必要であると思います。



■ 廃棄物排出量

■一般廃棄物:可燃ごみ、紙類(資源回収対象)などは、行政の分別ルールに従い、それぞれ、量を把握した上で排出しています。紙類(再生資源)が最も多く3503kg、次いで可燃ごみが3058kgとなっていました。特に米沢市の職員が入っている置賜総合文化センターは紙類の排出が2,907kgと約8割を占めています。全体でのリサイクル率は56.5%と昨年よりさらに改善が見られました。

■産業廃棄物:総排出量の90.6%が汚泥でした。次に多かったのは、廃蛍光灯で5.4%でした。児童会館や文化会館はLED化が進行中なので排出量は少ないのですが、市営体育館はそのうち82kg(78.0%)を占めていました。文化センターでは米沢市のゴミのルールに従い、蛍光灯は産業廃棄物でなく、不燃ごみとして処分しています。

■ 総排水量(水使用量)

市営体育館、文化センターで融雪用に地下水を利用していますが、量は把握できません。水道は、すべて生活用水となります。総合計4,743m³使用し、昨年度比約10.4%増でした。なお、放流先は全て下水となります。

■ 化学物質使用量(購入量)

該当する物質について、本社・南陽営業所データに含まれています。



米沢市市民文化会館



米沢市児童会館



米沢市営体育館



置賜総合文化センター



南陽市
勤労者総合福祉センター

6. 環境関連法規等の遵守状況、 訴訟等の有無



6-1. 適用となる環境関連法規等とその遵守状況

当社が法的義務を受ける環境関連法規の遵守状況は、令和3年4月に関連法規一覧にまとめ、確認した結果、違反はありませんでした。

- 環境基本法等：問題なし
- フロン排出抑制法：問題なし
- 水質汚濁防止法（貯油施設）：問題なし
- 浄化槽法：問題なし
- 下水道法：問題なし
- 自動車リサイクル法：問題なし
- 家電リサイクル法：問題なし

6-2. 法令違反・訴訟等の有無

行政からの環境関連法令違反の指摘・指導、環境面での訴訟は、創業以来ありません。

7. 代表者による見直しの結果



エコアクション21の認証登録を受けて、6年が経過し、エコアクション21推進委員会を中心に当社の環境経営活動が進められていますが、中間審査の年でしたが、大きな指摘事項もなく、この取組が全組織に拡大しても環境経営システムは有効に機能していることが確認出来ました。

令和3年度の取組結果は、いまだ新型コロナの影響はあるものの、少しずつ改善が見られています。暖房設備を石油ヒーターからエアコンに揃えたことにより、電力使用量は増加したものの、灯油使用量が大幅に減少し、全体的なCO₂排出量は、昨年度より削減することが出来ました。

当社で最も環境負荷の大きいガソリンの削減に向けて、車両の入れ替えの際、エコカー（軽自動車やハイブリッドカー）への切替を行ったことにより、使用量は減少し、こちらも改善が見られました。社員のエコドライブの意識がしっかりと浸透していることも大きな要因と思われます。

清掃作業で使用するアルカリ洗浄液は環境対応型洗浄液「強アルカリイオン電解水」に変更しましたが、この「強アルカリイオン電解水」によって、作業効率が向上し、社員の残業時間を減らすことが出来ております。この「強アルカリイオン電解水」は令和2年度に「楽落水（らくらくすい）」として商標登録し、令和3年度より販路拡大し、お客様の環境負荷軽減に寄与しているものと存じます。

指定管理施設は、令和3年度に入り、少しずつ利用が戻ってきているようですが、未だに新型コロナの影響による休館や利用控えなどで、稼働率が低下し、利用料金収入が減少いたしました。その結果、どの施設も電気使用量や水の使用量、灯油の使用量なども減少し、環境負荷軽減になりました。令和4年2月からゼロエミッション電気（実質CO₂排出ゼロ）の電力を供給いただいております。米沢市及び南陽市のゼロカーボンシティの取り組みに一早く成果を上げております。

環境負荷の軽減というエコアクション21の大きな目的を進めることは当然ですが、私たちは事業活動を通して、お客様や従業員の家庭の環境負荷軽減に寄与すべくエコアクション21推進委員会を中心として進めて参りますが、その活動を経営者としてしっかりと支えてまいります。

株式会社 エービーエム 代表取締役社長 赤間 俊明





EA21中間審査無事終了

エコアクション21の中間審査が令和3年11月2日、3日に行われ、「ガイドラインに適合」と評価されました。「エコアクション21」は2年に一度更新審査があるのですが、その間の年度にもちゃんと「ガイドライン」に沿って取り組みが為されているかどうかをチェックする「中間審査」があります。この中間審査といえども、ほぼ「本審査」と同様の内容で、書類審査はないものの、現地審査があり、総合的に「適合」か「不適合」なのか評価されます。令和2年に引きつづき、審査員は福島正道さんでした。現地審査では本社、南陽営業所、そして指定管理施設は米沢市児童会館、米沢市市民文化会館、置賜総合文化センター、そしてワトワセンター南陽の4施設が対象でした。審査員である福島さんは特に5Sに明るく、全ての視察で熱心にご指導いただきました。本社や南陽営業所では、昨年度福島さんからご指導いただいた、消耗品の管理に5Sが取り組まれていることが評価されました。また、強アルカリイオン電解水「楽落水」によって業務改善につながっていること、そして、商標登録によって、関連先に販売し、環境経営方針のさらなる推進が期待されていることでした。もちろん、指摘事項も様々ありましたので、次回の更新審査までにしっかりと改善を進めてまいります。



環境コミュニケーションレポート「エコロジーVol60」より

令和3年度エコアクション大賞

環境コミュニケーションレポート「エコロジーVol61」より

勤務施設	氏名	エコアイデア
南陽営業所	嶋津優美	パスタを茹でた際に出る茹で汁を捨てずにボウルにとっておく。そこに食べ終わった油やソースでギトギトのお皿を少しつけておくだけで「乳化」の原理で洗剤を使わなくてもスルスルと汚れが落ちます。よって、水や洗剤の使用量やイヤなスポンジの汚れうつりもありません!!他にも茹で汁でつけあわせのスープも「乳化」のおかげで分離せず、おいしく作れます。
三友堂病院	沼部まさ子	ある時何気にTVを見ていたら、静岡のお茶の番組で、飲んだ後のお茶ガラを捨てずにいろんな料理をして食べていました。次の日自分もお茶ガラを捨てずに冷蔵庫に入れてお昼に食べてみました。本当においしかったです。すりごまをかけたり、かつおぶしとか、ドレッシングとか。それ以来、絶対に捨てずに全部食べます。もう1年以上たちます。カセットか一度もひいた事ありません。健康そのものです。お茶は飲むより、食べる方が好きです。
三友堂リハビリテーションセンター	高橋敏子	スーパーなどでは肉・魚などトレーに入っているのがあたり前になっています。肉屋(特定)に行く時は自分でタッパーを持参しそこに肉を入れてもらい買ってきます。ひき肉・モモ・トリ肉・牛肉をまとめてそれぞれタッパーに入れてもらい、そのまま冷凍しています。トレーが少しでも少なくなるので。
山形大学 白楊寮	田村真知子	捨ててしまっていたエビの殻や尻尾をオープン等でカリカリにし、ミキサーで粉末にして、スパゲティにかけたり、チャーハンにかけて使うとキッチン・アスタキサンチン・カルシウムを摂取することが出来るので、ひと手間ですぐに栄養にもなります。
ナセBA	我彦政孝	車でドライブに行くなら、サイクリングにする。(ガソリン節約、空気も汚さない。さらに車内での三密もなく、体力作にもなるので、コロナ対策としてもうってつけ。)
道の駅米沢	嶋貫舞	必要以上に野菜を買いこんで、結局使用せずに腐らせる事が多かったので、よく使う野菜は自分達で育てる様にしてなるべくお店で買わないようにしました。
公立置賜長井病院	高橋剛	炊飯器の保温は使わずに、ご飯が冷えた時には食べる分だけレンジで温める
米沢市児童会館	渡部裕子	着なくなった服はエコバックにリメイクして買い物の時に持参します。さらに、小さな布切れはちよとした所を拭き取る雑巾としてこまめにストックしておきます。
南陽警察署	會田亜寿華	ポディソープや洗剤類などつめかえ用を買ったら、日付を記入しておき、実際に使った日を調べて余計なストックを買いすぎないようにする。
山形県公立大学法人	猪口優子	コーヒーのかすを乾燥させて、冷蔵庫や下駄箱、トイレに置いて脱臭剤代わりに使う。そうすることで、再利用できます。

受賞者には賞状と賞金が贈呈されました！受賞した3名のアイデア以外にも秀逸なアイデアばかりでした



事務局コラムみんなde「SDGs」

環境コミュニケーションレポート「エコロジーVol58～Vol61」より



1 「地産地消」もエコのひとつ

地産地消とは、「地域生産・地域消費」の略語で、地域で生産された様々な生産物や資源を、その地域で消費するという意味です。なぜ地産地消がエコなの？と思う方もいらっしゃると思いますが、遠方で作られる商品よりも、近場で作られた商品を選ぶ方が、輸送によるCO₂排出量を抑えられるからです！

現在、新型コロナウイルスの感染拡大防止の為、全国的に外出自粛の要請が続いています。そんな、家ででの食事の機会が増えるときこそ、地元の食材に目を向けてみましょう。身近な場所から新鮮で、より安価で安心安全な食材を選ぶこともできるうえに、環境にも優しい生活につながる、いいことづくしの取り組みです。この機会にぜひ！

2 「DX」の「X」って何？

最近、SDGsと並んで、新聞やネットで良く目にする「DX」、これは「デジタルトランスフォーメーション」の略で、「データとデジタル技術を活用し、顧客や社会のニーズをともに製品やサービス、ビジネスモデルを変革し、業務そのものや組織、プロセス、企業文化、風土を変革し、競争上の優位性を確立する」(DX推進ガイドライン)がDXなのですが、「トランスフォーメーション」なら「DT」じゃないのかと、不思議に思ったので、調べてみたところ、英語圏では、トランスフォーメーションの「trans-」を「X」で略して使うからだそうです。すっかりしました。そんなDXですが、SDGsにどんなつながりがあるか、一つはデジタル化によってペーパーレスが出来ます。また、作業効率上がるため、残業が減り、CO₂の削減になります。残業が減ると、プライベートが充実し、ライフワークバランスの向上につながります。

3 「家庭のアクション」結果発表

山形県地球温暖化防止活動推進センター主催の『目指せ！カーボンニュートラル 家庭のアクション』に39人の社員が参加いたしました。地球温暖化の原因となる温室効果ガス排出量の削減のため、県民みんなで取り組む活動です。項目ごとに1人1日当たりのCO₂削減効果を推算した結果、なんと17,856,004gの削減となりました。今回の活動で削減できたCO₂排出量を杉の植樹本数に換算すると、約1,275本になります。(※杉1本当たり、年間14kg-CO₂を吸収すると言われています)これは、バスケットコート約9面分の広さに杉を植樹したことになります。(※バスケットコート面積：420m²)従業員数約12%が、家庭でできるちょっとした気遣い(アクション)を、たった3ヶ月間実施しただけでこれだけの結果に…これが、従業員全員が、毎日実施したならば、この何倍もの結果に結びつくのではないのでしょうか。

4 「5S活動」

5SとSDGsは関係なさそうですが、実は5S活動を行うことで目指せるSDGsの目標があります。今回は先号で紹介した福島さんの5Sプレゼンを元に取り組んだ例を1つご紹介します。

テープを斜めに貼るだけ



【背表紙にテープを山付け】
◎順番が視覚的に分かり易い
◎テープが直線になるように
つい順番を揃えなくなる
結果…
常にファイルが揃った状態
5Sの「整頓」が保たれる！

このように整頓が保たれることで何が期待できるか。それは「作業効率上がること」であり、SDGsの目標8に関連します。些細なことではありますが、少しずつの積み重ねが5Sの定着とSDGs目標達成につながると信じて、これからも活動を続けてまいります。



What 's A-cology (えーころじー) ?

社員全員が「エコアクション21」への理解を深め、より楽しくエコ活動を進めていただけるように、環境活動情報をこの「A-cology (えーころじー)」で発信しています。この「A-cology」は、管理している指定管理施設の広報誌の不要な裏紙を再利用して発行しております。内容は、環境目標達成状況の他、SDGs、社有車E-1グランプリ(燃費競争)、その他、委員会メンバーが考えたエコにまつわる色んなことを掲載しています。



本社および南陽営業所で配布しています。





2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

株式会社エービーエムは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

この環境経営レポートは、ご希望の方に差し上げています。
ご希望の方は、本社窓口でお申し出いただくか、下記にご連絡下さい。
弊社HP (<https://www.y-abm.co.jp/>)、エコアクション21中央事務局
のHP (<http://www.ea21.jp/>) でもご覧いただけます。

〒992-0003 山形県米沢市窪田町窪田584-2
TEL0238-37-5733 FAX0238-37-2822
Email : sale@y-abm.co.jp

